

# 「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 竹田 開催概要

[開催日：令和2年10月2日（金）]

**【学校訪問参加者】会場：くじゅうアグリ創生塾**  
大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、教育次長 他）  
竹田市教育委員会（吉野教育長、教育委員、教育理事 他）

**【学校訪問①】 竹田市立南部小学校（※リモートでの授業参観） 於：くじゅうアグリ創生塾**

竹田市立南部小学校は「友情の蛍おくり」を通して別府重度障害者センターとの交流を50年以上続けています。また「ふれあいフェスタ」では郷土学の授業公開や、バザーで地域との交流をはかるなど、特色ある活動を例年行なっています。（どちらも今年度は中止）

学習指導では、「南部小ミニマムスタンダード」として“中心的な活動”の前後に“めあて・課題”“まとめ・振り返り”を入れることを徹底するなど授業改善の取り組みをはかっています。

今回の学校訪問では、初の試みとしてリモートでの授業参観（1年、3年、6年）を実施しました。



6年生算数の授業風景

**【学校訪問②】 竹田市立竹田中学校（※リモートでの授業参観） 於：くじゅうアグリ創生塾**

竹田市立竹田中学校は「ミュージックフェスタ」という学級対抗での合唱コンクールを行なったり、中心部の学校として豊後竹田駅の清掃ボランティアをおこなうなどの特徴的な取り組みをしています。

学力の向上に向けては、授業前1分間瞑想を昨年度から取り入れ、授業力向上のためにペアでの互見授業を行なっています。

また、体力向上のため、体育の授業や部活動において「竹の子体操」を行なっています。

授業参観は、2年生と3年生をリモートで参観することができました。



リモートによる授業撮影の様子

**【学校訪問③】 大分県立久住高原農業高等学校（実習見学）**

大分県立久住高原農業高等学校は、全国から生徒を募集して先進的な農業学習を行なう農業人材育成の高校として開校2年目を迎えています。

学校訪問では、リモート参観のモニターから離れ、広大な学校敷地内へと移動し、農業実習を参観しました。

「課題研究」で子牛の飼育状況を確認しているところや、農作物の管理を行なっている生徒の様子を見学することができました。また、敷地内で栽培されているトマトなどの果樹やシクラメンなどの花を見ることができました。



生徒に質問する教育委員

## 【意見交換会テーマ】

- (1) TOP(Try Original Project)運動【学びの湧出】を要とした学力向上の取組について
- (2) ICT 機器が整備された後での学校における教育活動の変革

【出席者】 学校訪問参加者 及び 竹田市（小学校長 2名,中学校長 1名,センター所長 1名）

### (1)TOP(Try Original Project)運動【学びの湧出】を要とした学力向上の取組について

まず、竹田市教育委員会の渡邊早苗学校教育課長から、市の取組状況を説明してもらいました。「竹田市教育のまち TOP 運動」の第4フェーズとして、主体的に学ぶ子ども・学び続ける教職員・これまでの教育と新しい学びの融合をめざした取り組みの紹介がありました。

#### 【協議内容】

- ▶授業を構想する際に授業づくりの練り合いが不足  
授業力向上のための授業改善が必要
- ▶協調学習を実施する際は、今までの積み上げを活かして、単元や教科で効果のある取組
- ▶家庭学習では、知識・技能の確実な定着を目指し、授業では、言語活動の充実などの取組による連動を図る
- ▶以前の竹田市の勢いを取り戻すため、教科部会での連携強化に向けて ICT も活用
- ▶OJTにおける若手、ミドルリーダーの育成を実施し、授業力向上の取組が急務



### (2)ICT 機器が整備された後での学校における教育活動の変革について

竹田市教育委員会の猪股指導主事から、市における取組状況を説明してもらいました。大型テレビや実物投影機、PC など、既に整備されている機器の活用状況、また、コロナ禍で休校中に行なった竹田市での取り組み（動画コンテンツ作成、YouTube 配信など）について紹介がありました。

#### 【協議内容】

- ▶現在行われている「T（竹田交流）授業」での他校間交流や郷土学（調べ学習での活用、講師との連携）を ICT 機器活用で展開
- ▶教科担当が、1人配置の学校における教科部会の取組を ICT 機器活用を通して、効率的で効果的運用の実現。
- ▶学校での集会や様々な教育活動への利用拡大
- ▶ICT 機器活用のための教職員のスキルアップの必要性と計画的な研修の実施



#### 【全体を通しての意見】

- ▶学校ごとの課題や取組を洗い出し、取り組む以上は、「徹底」と「継続」が重要である。また、取組に対する「PDCA」を行い、常に進捗状況を確認する必要がある。
- ▶『2020からの新しい授業づくり HB』を、活用促進することが重要である。
- ▶何事も決めたら、「今からやる。すぐにやる。」が大切である。

#### 【意見交換を終えて(工藤県教育長から)】

皆さんから貴重なご意見を多数いただけてよかったと思います。あらためて、学力向上と ICT 機器の活用は、同じベクトルであると確認できた。子どもたちをどう育てるかということの一つひとつ確認しながら進んでいくことでお互いに成長する。取り巻く環境が変わればいろんな課題や問題が出てくるが、しっかり取り組んで解決に向けていければいいと思う。

